

甲斐武田氏発祥の地

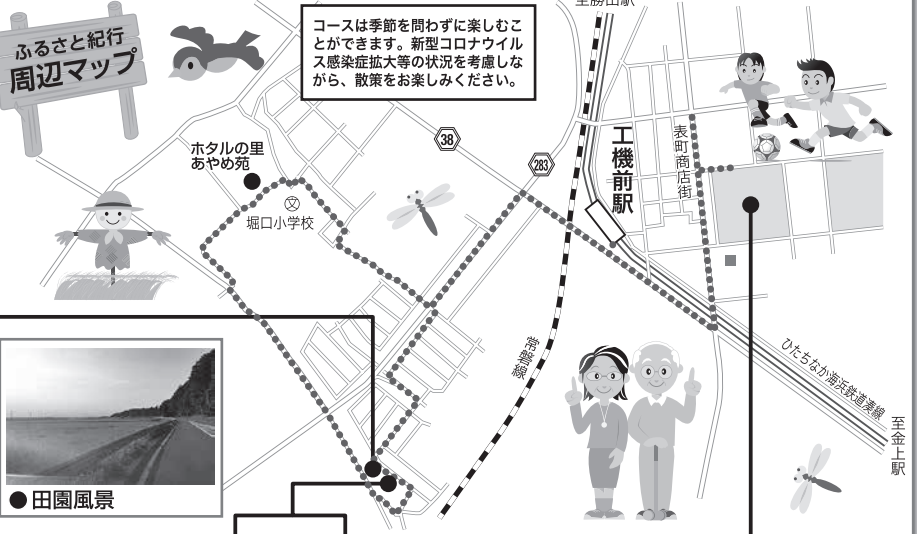


武田氏館 (たけだしやかた)

風林火山の軍旗で知られ、織田信長も恐れたという戦国武将・武田信玄。その武田氏のルーツはひたちなか市にあった。八幡太郎・源義家の弟・義光が常陸国への進出を図り、義光の三男の義清は地名である「武田」を名乗った。その後、地域での激しい勢力争いの末、朝廷に訴えられ、武田氏は甲斐国(現山梨県)へ配流となった。甲斐国で勢力を拡大した武田氏。義清から数えて18代目を信玄が継ぐことになる。

武田氏館は鎌倉時代の豪族の館がよく再現されており、母屋や蔵(うまや)、納屋、門、塀などがある。館内には義清と子・清光を再現した武者人形をはじめ、甲冑や刀などの武具も展示されており、歴史ロマンを楽しむことができる。

開館時間:9:00~17:00(入場は30分前迄) 月曜休館(祝日の場合はその翌日) 入館料無料



コースは季節を問わずに楽しむことができます。新型コロナウイルス感染症拡大等の状況を考慮しながら、散策をお楽しみください。

● 田園風景



● 湫尾(ぬまお)神社

祭神は素戔鳴尊(すさのおのみこと)。平成25年に焼失したが、30年に再建された。境内には諏訪神社と稲荷神社がある。



● 湫尾神社のヒラギ(左)・スダジイ(右)

ヒラギは周囲約1.5m、樹高約14mで推定樹齢は約250年。スダジイは周囲約5.2m、樹高約23mで、推定樹齢は400~450年。



● 石川運動ひろば

充実したスポーツ施設を誇るひたちなか市。市の中心部にあり、野球、サッカー、テニスなどを楽しむ人々の姿が見られる。

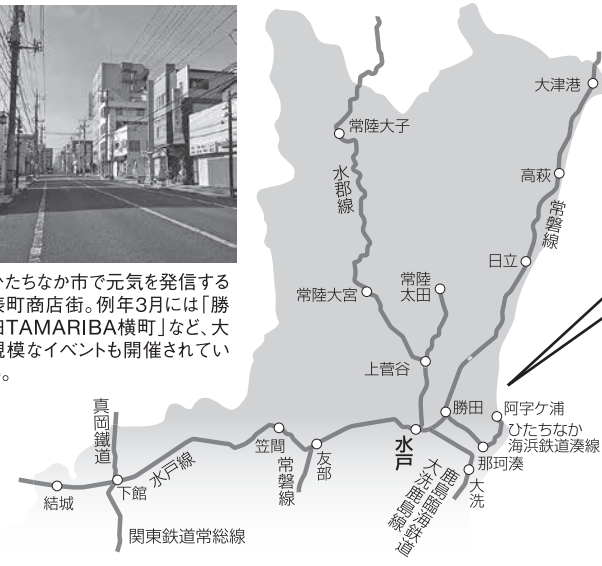
駅からのふるさと紀行 ひたちなか 海浜鉄道湊線

工機前駅

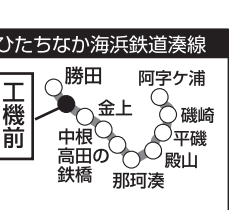
● 次回は10月25日 掲載予定です。 ※イラストはイメージです。



ひたちなか市で元気を発信する表町商店街。例年3月には「勝田TAMARIBA横町」など、大規模なイベントも開催されている。



● 1面1線の工機前駅。ひたちなか市文化会館や表町商店街にも近いため、一般の人でも利用する。



● 現在の駅標



● 駅への入口

● 散策コース ●

工機前駅から県道38号線を市毛十文字方面に向かい、JR常磐線を越えて県道283号線を左折すると武田地区だ。「武田新地」の交差点を右折し、堀口小学校を過ぎるとホテルの里あやめ苑がある。地域にこいの場所を作ろうとアヤメを植えたことを機に整備が始まり、平成5年に完成した。そこから那珂川沿いの田園風景を眺めながら南下すると、甲斐武田氏発祥の地にたどり着く。

まずは武田氏ゆかりの湫尾(ぬまお)神社へ。鳥居の横に「甲斐武田氏発祥の地」と刻まれた石碑があり、その奥に新しい拝殿が鎮

座する。創建については、「慶安元年(1648年)再建」と社誌に書かれている。以前の拝殿は茅葺き屋根だったが、現在は銅板葺になった。元禄年間には徳川光圀公も神鏡を納め、崇敬されたといわれる。境内にはヒラギとスダジイの巨木(いずれも市の天然記念物)があるので、そちらも見ておきたい。境内を満喫したら隣接する武田氏館へ。中世の武士の館を知ることができる貴重な場所で、武具をはじめ、近隣の発掘調査で出土した平安期の出土品など、見どころは多い。

歴史を満喫したら駅の北側へ。こちらは石川運動ひろばがあるなど、開放的で緑の多い地区だ。表町には商業施設や飲食店が充実しており、歩いているだけでも楽しめる。

働く人と、世界を走る。 ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社 本社/〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(代) https://www.ibaraki-isuzu.co.jp

令和元年に「日工前駅」から改称南側には武田氏ゆかりの史跡多数 起点の勝田駅からは約600メートルの距離にあり、約1分で結ばれる。ひたちなか海浜鉄道湊線の工機前駅は昭和37年4月、隣接する工場に勤務する従業員のための専用駅として開業した。当初は朝夕に1本ずつが停車するだけの駅だったが、平成10年からはすべての列車が停車するようになった。「日工前駅」と名付けられた駅は、一般の乗客も利用できるようになり、通勤や通学、買物などに利用されている。令和元年10月1日には、駅名の由来となっている会社が改称したため、工機前駅と改められた。当日は「電動工具の日」だったというのが面白い。 駅南側は戦国時代の名将武田信玄を生んだ甲斐武田氏発祥の地。地域には「武田氏館」をはじめ、武田氏の始祖を偲ぶ史跡や施設がある。